

再生可能エネルギーのエース

# 風力発電は カーボンニュートラル に値するのか

第20弾

このままでは、日本の  
自然が無くなります。



仁木町北町 1 丁目 4 5

津司 康雄



日本は、再生可能エネルギーの導入の錦の下、風力発電所や太陽光の発電所作りに野山の乱開発が止めどもなく繰り返されております。



このままでは、日本の自然は皆無になります。災害はもとより被害が無いと言われている健康被害が頻発し、魚は取れなくなり漁師は失業。農作物は不作となり農業の継続はかなわず、ニワトリの卵には黄身が



無くなり、家畜には奇形が増え、人には、低周波音・超低周波音の被害を更年期障害、風土病と言いつくろい、体調不良から逃げてもやがて逃げ切れなくなる時が来ます。やがて日本の自然はもとより、安住の地は無くなる時が目前です。

風力発電について調べれば調べるほど、カーボンニュートラルに資するのか疑問と言うより、二酸化炭素が増加する確信にたどり着きました。



確かに、2000kwhで130万二酸化炭素トンの削減はありますが!?



風力発電には、火力発電等のバックアップ電源が欠かせない。

しかし、風力発電所が稼働すると、アメリカでは火力発電所の稼働だけの日より、風力を併用した日に大気中の二酸化炭素の排出量が激増したのです。

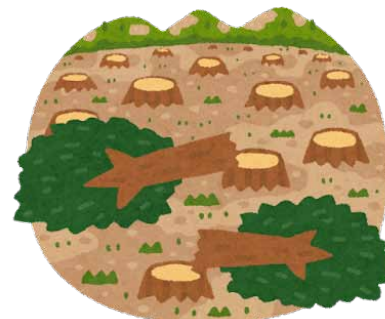
2007年フランスの「持続可能な環境連盟」が、「EU統計機関ユーロスタットによれば、ドイツ

は電力全体の4.4%が風力発電だが、風力発電機が稼働すると二酸化炭素の排出量が1.2%増えている」と報告。フランス、スペイン、ポルトガルなども同じです。(風力発電で見ると27%です)

**風力発電は、地球温暖化をむしろ進める疑問が生じました。政治家の先生方や事業者は、無頓着に推進しています。一度立ち止まって考える時と思います。**

## トータルで考えてみましょう

- ・ 先ずは、風力発電の機器を作るのに出る排出二酸化炭素の量。
- ・ 工事に絡む排出二酸化炭素の量。
- ・ 建設に要する林道と称する作業道路による減少酸素の量。
- ・ 維持管理に関する排出二酸化炭素の量。
- ・ 発電の制御に関する排出二酸化炭素の量。
- ・ 電気の質を整える為に関する排出二酸化炭素の量。
- ・ 風力発電所が稼働すると排出二酸化炭素の量が激増する怪。
- ・ 洋上風力発電所に至っては、建設基準法に値する基準が未整備であるのみか、浮体式に至っては、固定ワイヤーの定期的な交換が必要で、採算ベースに乗るとは思えません。
- ・ 電気を消費地に送るのに7兆円と言う膨大な送電施設が必要です。



イギリスの洋上風力発電 (Wikipedia より)

(北海道の場合、太平洋幹線・日本海幹線各3兆円・道内幹線1兆円)

- ・ 更に、遠距離送電には、ロスがつきもので送電量の3.4%、火力発電所7基分にも相当すると言われております。



『風車は惜しみなくイノチを奪う』 斉藤 武一著  
『仁木町の風力発電を考える会』発行より



- ・ 最大の懸念は、一度壊した自然破壊は取り返しがつきません。
- ・ 耐用年数経過後の廃棄処分が、毒性が強くて不透明です。



以上のことを勘案すると、  
二酸化炭素の削減どころか増やすのみではないかと思慮致すのは、私  
だけでしょうか。

合成燃料のロードマップが資源エネルギー庁から発表になっております。それによりますと、2050年には、化石燃料より安くなると書かれております。今すぐに合成燃料に取り組むと前倒しになり、北海道、いや日本の自然は守られると思うので、この辺りで冷静になったら如何ですか。

**二酸化炭素の量を減らす為の再生可能エネルギーの取り組みが、真に地球の為になっているのかを問い直します。**

＜e-fuelの商用化に向けた現行のロードマップ＞

